

本地域南部及び北東部には広範囲に白色化変質帯が分布する。これらの変質帯は主として、珪化、カオリン化からなり、南部では褐鉄鉱または自然硫黄の鉱染を伴い、北東部ではシリカシンター中に黄鉄鉱の鉱染が著しい。

岩石地化学異常として注目されるのは、As-Hg高異常である。

上記変質帯の分布は、空中磁気の間強度帯に含まれる。また、北東部の変質帯は中波長高異常域の周縁に、そして南部の変質帯は短波長低異常の周縁に位置している。

## 2-12 パイルカ地域

本地域の地質図をFig. 2-2-60に、模式地質柱状図をFig. 2-2-61にそれぞれ示した。

本地域の地質は、上部第三系、上部第三系-第四系及び第四系からなる。

上部第三系は、新第三系中新統-鮮新統のイグニンプライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩・礫岩の挟み)からなり、上部第三系-第四系により不整合に覆われる。

上部第三系-第四系は礫岩からなり、第四系により不整合に覆われる。

第四系は沖積層、地滑り堆積物及び崖錐堆積物からなる。

本地域には、変質帯・鉱化帯は存在しない。

本地域には空中磁気の中波長高異常・中波長低異常・中間強度帯が抽出されているが、中波長高異常は、上部第三系-第四系礫岩の分布域に、また、中波長低異常は新第三系中新統-鮮新統イグニンプライトの分布域に相当する。中間強度帯に対応する地質現象は不明である。

## 2-13 カミーニャ地域

本地域の地質図をFig. 2-2-62に、模式地質柱状図をFig. 2-2-63に、鉱徴位置図をFig. 2-2-64に、変質鉱物分布図をFig. 2-2-65に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-66にそれぞれ示した。

本地域の地質は、上部ジュラ系、下部白亜系、第三系-第四系及び第四系からなる。

上部ジュラ系は主として頁岩、砂岩及び礫岩からなる。

下部白亜系は安山岩質～玄武岩質の溶岩・火砕岩からなり、砂岩・頁岩を挟む。

白亜系は、白亜紀または第三紀の貫入岩類に貫かれる。この貫入岩類は、花崗閃緑岩、閃緑岩、閃緑斑岩及び石英斑岩からなる。これらの貫入年代は従来の地質図では白亜紀とされていたが、今次調査によりK-Ar法年代(全岩)として、閃緑岩： $58.8 \pm 2.0$  Ma、閃緑斑岩： $56.8 \pm 1.9$  Ma、 $58.1 \pm 1.9$  Ma、石英斑岩： $56.9 \pm 2$  Ma、 $63 \pm 2$  Maを得たことから、貫入岩類の一部は古第三紀暁新世の活動であることが明らかになった。上部ジュラ系、白亜系及び上記貫入岩類は第三系-第四系により不整合に覆われる。

第三系-第四系は、イグニンプライト(流紋岩質溶結凝灰岩・軽石凝灰岩)及び礫岩・砂岩からなる下位層と、これを不整合に覆う玄武岩溶岩とからなる。

第四系は、沖積層及び地滑り堆積物からなる。

本地域には東部、中央部の2カ所に変質帯及び鉱化帯が存在する。いずれも白亜系中に貫

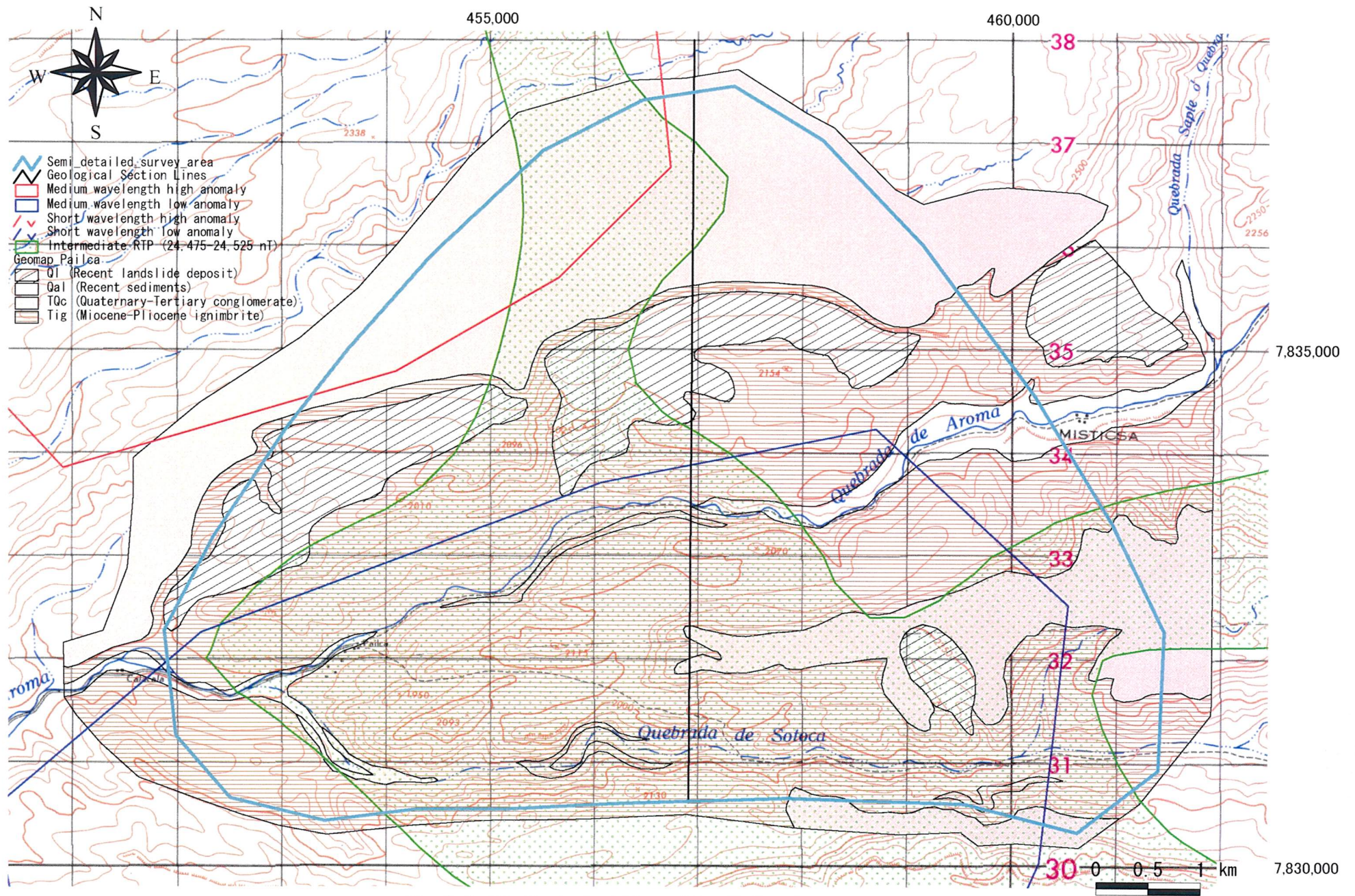
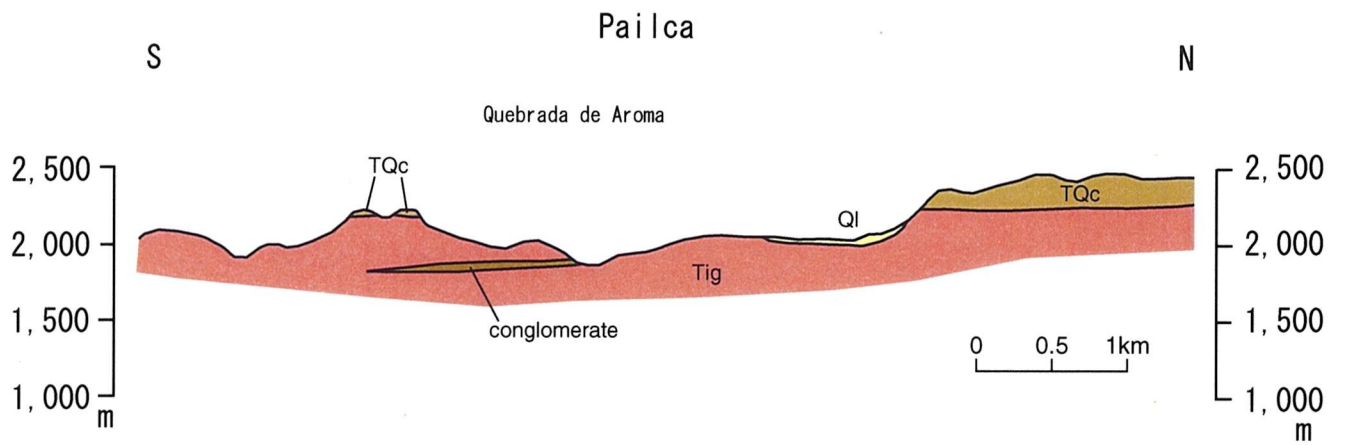


Fig. 2-2-60 Geological Map of the Pailca Area



Geologic Time		Columnar Section	Lithology	Intrusives	Mineralization
CENOZOIC	QUATERNARY -NARY	HOLOCENE	Ql Landslide deposit Alluvium		
	QUATERNARY ~ TERTIARY		TQc Conglomerate		
	TERTIARY	PLIOCENE ~ MIOCENE	Tig Pumice tuff Welded tuff Conglomerate		

Fig.2-2-61 Schematic Stratigraphic Columns and Profiles of the Pailca Area